



Car Entertainment Magazine

[ゲンロク]

ゲンロク 2019年12月号 (毎月26日発売)
10月26日発売 No.406 第34巻第12号

2019
DEC
No.406
定価 998Yen
12

Ferrari in the Future 進化するフェラーリ

新V8ミッドシップ、F8トリブートの全貌
3モーターPHV、SF90ストラダーレ日本上陸
458イタリア、488スパイダー再検証
歴代V8ミッドシップの魅力



ロールス・ロイス／BMW／GT-R特選ショップ

〔SUPER TEST〕マクラーレン600LT

〔BRAND NEW〕アストンマーティンDBS
スーパーレッジエーラ・ヴォランテ

〔ポルシェの最新事情〕タイカン／911カレラ
カイエン・ターボS Eハイブリッド

REPORT◎中三川大地(NAKAMIGAWA Daichi) PHOTO◎白谷 賢(SHIRATANI Ken)

ルソンとはラグジュアリーといふ意味だ。我々はついフェラーリと向き合う時、フェラーリが「の走りに対して貢く理想像を前に、軽い気持ちでカスタムなどして乗り倒すことを躊躇しがちになる。もちろん、ひと声3000万円オプションまで網羅すれば4000万円代が見える価格的敷居の高さもある。しかし、フェラーリGT C4ルソンの場合、それがV12かV8(ト)かはいったん脇に置いておいて、徹底的に自由にそしてラグジュアリーな感覚で乗り倒したい。そう、フェラーリが認めたと思うべきだ。

とはいっても、ゴチゴチと飾り立てるだけのラグジュアリー・ドレスアップでは無粹だ。肝心なのは、攻

めるポイントと引くポイントを吟味して、ベースの魅力を引き立たせること。今回、ECCスペックがコーディネートしたGTC4ルツォを前に、そんなことを考えていた。

攻めるポイントとして欠かせないのがホイールセレクトだ。GTC4ルツォに限らず、ホイールはカスタムの出発点であり永遠のテーマである。今回、ブリクストン・フォージドを投入した。2013年の創業以来、飛ぶ鳥を落とす勢いで成長を続けるアメリカ西海岸系の鍛造ホイールブランドだ。彼らのホイールコレクションはそのどれもが宝石のように繊細で美しく、ルツォという世界観にはピッタリだと思える。

見るからにラグジュアリーなこの

レ ッソとはラグジュアリーとい
..... めるポイントと引くポイントを吟味

EC.SPEC

Ferrari GTC4 Lusso



フェンダーいっぱいに拡がるホイールの様子があらゆる角度から確認できる。今にも駆け出しそうなスポーティなショーティングブレークフォルムと相まっていい雰囲気である。



10本のY字状スプークで形成されるブリクストン・フォージドのPF10。各スプークはリムに対してフローティング形状となって、まるで浮いているように見える。フルボリッシュ仕上げでラグジュアリームード満点だ。サイズはフロント21インチ、リヤ22インチ。

何しろフェラーリ自身がラグジュアリー（ルッソ）と命名したからには、こうしてアメリカン鍛造ホイールなどを組み合わせて、徹底的に日常やレジャーで乗り倒すのがいい。

鉢柄はPF10という。正確には2ヒースを採用するDUO（デュオ）シリーズで成り立つPF10だ。複雜怪奇なメッシュデザインを紐解くと、実際はアシンメトリー形状を持つ10本のY字スボーケで構成されている。2018年のSEMAショーでは、このPF10を最前面に出して訴えていたから、彼らにとつてもフラッグシップで自信作なのだろう。

今回、シックなガンメタ調のボディカラーの中で、燐々と輝く太陽のように映えるフルポリッシュ仕上げのPF10が収まつた。サイズはフロント9×5J×21インチ、リヤは12×5J×22インチという前後異形となる。フェラーリの標準が20インチなので、1～2インチアップだ。リムエンドにつばいまでスボーケが抜がつて実寸よりも大きく見えるホイ

